



泉屋博古館

SEN'OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM

生誕一五〇年記念

板谷波山の

陶芸

近代陶芸の巨匠、
その麗しき作品と生涯

ITAYA Hazan: The 150th Anniversary of his Birth

2022
9 | 3 sat. | | 10 | 23 sun.

休館日 月曜日(9月19日)、10月10日は開館、9月20日(火)、10月11日(火)

開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料 一般1,000円、高大生800円、中学生以下無料

主催 公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞

特別協力 筑西市、公益財団法人波山先生記念会、廣澤美術館

企画協力 株式会社エレイター

後援 京都市、京都市教育委員会、京博連、公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局

《彩磁京花瓶》大正後期 廣澤美術館蔵



同時開催 青銅器館「中国青銅器の時代」



陶芸家板谷波山は、明治五年（一八七二）茨城県下館町（現・筑西市）に生まれ、昭和二十八年（一九五三）には陶芸家として初の文化勲章を受章し、昭和二十九年（一九五四）には日本画の横山大観とともに茨城県名誉県民の第一号となりました。

波山は、理想の作品づくりのためには一切の妥協を許さないという強い信念により、端正で格調高い作品を数多く手がけました。その一方で、波山は、故郷のまちと人々をこよなく愛し、共に信頼し、共感し合いながら、生きていくことを大切にされた人物でもありました。

令和四年（二〇二二）三月三日、我が国の至宝である板谷波山は、生誕一五〇年を迎えました。

この記念すべき年に、住友コレクションをはじめ波山の選りすぐりの名作を一堂に集め展覧します。あわせて、波山が生まれ愛した故郷への思いや人となりを示す貴重な資料、そして試行錯誤の末に破却された陶片の数々を通して、「陶聖」と謳われる波山の様々な姿を紹介いたします。

波山の作品に表現された美と祈りの世界に癒されそして、波山の優しさとユーモアにあふれた人生に触れるひと時をお楽しみください。

A 《彩磁金魚花瓶》

一九二一（明治四十四）年頃 筑西市（神林コレクション）蔵

B 《彩磁露葉文花瓶》

一九二一（明治四十四）年頃 廣澤美術館蔵

C 重要文化財《葆光彩磁珍果花瓶》

一九一七（大正六）年 泉屋博古館東京蔵

D 《彩磁更紗花鳥花瓶》

一九一九（大正八）年頃 泉屋博古館東京蔵

E 《彩磁菊花図額皿》

一九二一（明治四十四）年 しもだて美術館蔵

F 《葆光彩磁奏模様鉢》 大正前期 個人蔵

G 《天目茶碗》

一九四四（昭和十九）年 筑西市（神林コレクション）蔵

H 《彩磁珍果文香炉（火舎 北原千鹿）》

一九二五（大正十四）年 廣澤美術館蔵

*一部展示替えがあります。



ITAYA HAZAN

会期中のイベント

すべて入館料のみでご参加いただけます。

会場：当館講堂（いずれも午後2時より）各定員：40名（予約制・先着順）

受付開始：8月12日（金）午前11時より、ホームページまたは電話075・771・6411にて

講演会

9月3日（土）

「板谷波山の陶芸―麗しき作品と生涯―」

荒川正明氏（本展監修者・学習院大学教授）

10月10日（月・祝）

「陶芸家・波山誕生…金沢時代を語る」

ゲスト：荒川正明氏・濱岸勝義氏（石川県立工業高等学校）

■学芸員のスライドトーク

9月23日（金・祝）

「近代工芸もうひとつの源流―中国古代青銅器の造形と紋様―」

泉屋博古館学芸員 山本堯

10月9日（日）

「コレクター・住友春翠と板谷波山」

泉屋博古館東京学芸員 森下愛子

◆割引情報

◎本展覧会の入場料で青銅器館もご覧いただけます

◎20名以上は団体割引20%、障がい者手帳ご提示の方は無料

京都東山美術館さんぽ

本展の半券提示で、左記展覧会の一般入館料800円が700円になります。

野村美術館「千利休生誕500年 利休茶の湯の継承」

前期：9月10日（土）～10月23日（日）/後期：10月25日（火）～12月11日（日）

*詳しくは館内または各館ホームページでご確認ください。

交通アクセス

京都市バス32系統 宮ノ前町下車すぐ

同5、93、203、204系統

東天王町下車、東へ徒歩3分

地下鉄東西線「東山」

または「蹴上」より徒歩15～20分

〒606-8431

京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

電話075・771・6411

URL <https://www.sen-oku.or.jp/kyoto>



泉屋博古館

SEN-OKU
MUSEUM
HAKUKOKKAN

